# 起立歩（キリット） kiritto VOL.40

令和6年1月発行
発　行：香川医療生活協同組合
　　高松協同病院
発行者：院長 北原孝夫
編　集：高松協同病院 広報委員会
H　P：http://t-kyodo.com/

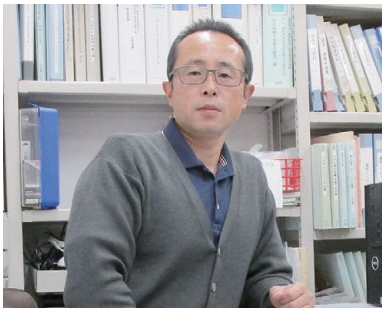
## 新年のご挨拶

院　長　**北原 孝夫**

明けましておめでとうございます。昨年後半は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に加えてインフルエンザも大流行となっておりました。そのため新型コロナウイルス感染症が昨年5月から感染症予防法上の2類から5類に変更となり地域住民の日常生活の制限はかなり緩和される一方、我々医療介護福祉に関連する事業所での感染症対策は引き続き緩めるわけにはいかない状況が続いています。高松協同病院におきましても感染対策に十分に取り組んできましたが、それでも病棟内での集団感染が発生してしまい入院患者様や介護関係のサービス利用者の方々及びそのご家族様にも感染拡大を予防するために一定の制限を強いることとなりました。また地域の医療介護福祉関係の事業所の方々にも入院の受け入れや施設退院などにも影響が出てご迷惑をおかけしてしまう事態になってしまったことをあらためてお詫び致します。しかしだからこそ当院はWHOが推進する健康増進拠点病院（HPH）として、発熱患者様の対応にも積極的に取り組み予防医療としてのワクチン接種や健診活動などにも力を入れ地域の皆様に医療・介護を提供し地域全体の健康に寄与できるよう職員一同日々奮闘しております。対面でのいろいろな活動も再開しつつあり多職種で協働しながら地域住民及び職員自身のいのちと健康を守り、地域住民全のAOL及びQOLの向上を目指すヘルスプロモーション活動を今後も進めてまいります。困り事や心配事はまず高松協同病院になんでもご相談いただき、地域包括ケアのシステムも活かして様々な対策や工夫をしながら個人の健康管理や地域全体の健康増進活動までも自粛することなく実践できるお手伝いができるよう我々も頑張っていく決意です。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

副院長　**植木 昭彦**

あけましておめでとうございます。昨年までのコロナ禍の影響で、なかなか地域での行事が少なくなっていましたが、今年は高松協同病院20周年の記念事業が早速1月にあります。このような中で、当院の回復期リハビリテーション病棟も、面会や外出などの機会を徐々に拡大することができました。今まで以上にコロナやインフルエンザをはじめとした感染症に注意しながら、より積極的に地域の中へつながっていくような活動を実施していきたいと考えております。「協同病院でリハビリをすれば、元気になって自宅に帰れる」と言っていただけるような病院づくりを引き続き目指していきます。本年もよろしくお願い申し上げます。

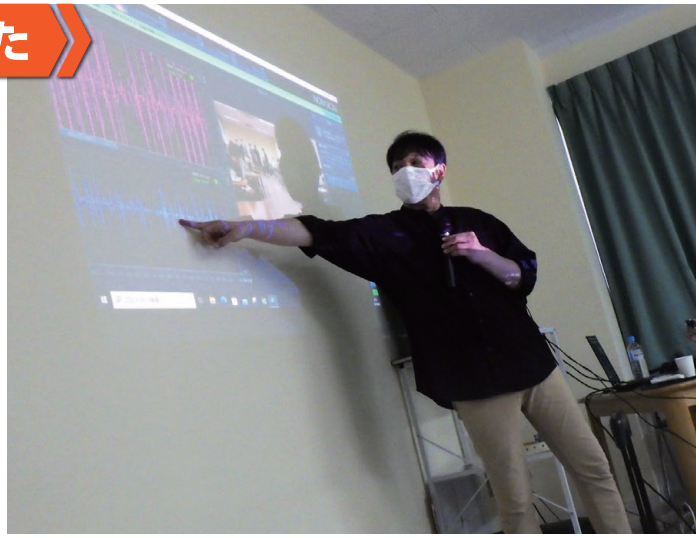


事務長　**宮西 剛司**

明けましておめでとうございます。昨年新型コロナ感染症は5類となりましたが、その感染力は以前のままであり、多くの方々が苦しい状況に立たされました。当院でも患者様の安全を最優先に、職員は日々の業務に取り組んでまいりました。同時に地域、連携機関の皆様からもご理解とご協力をいただき、無事に新しい年を迎えることができました。この場を借りてお礼申し上げます。

2024年は本当の意味でコロナを克服する年と位置付けています。昨年の経験を生かし、感染症対策を一層強化し、患者様の安全を確保しつつ、質の高い医療を提供していきます。また地域との連携を一層深め、健康な社会づくりに貢献します。これからも患者様とともに歩み、地域に信頼される医療機関であり続けるために、職員一同力を合わせてまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 「歩行再建」の研修会開催しました



### 北陸大学 健康未来社会実装センター センター長の大畑光司先生

テーマ：歩行再建と生活再建
日　時：2023年10月28日(土)
14：00～17：00
講義+実技

北陸大学　健康未来社会実装センターセンター長の大畑光司先生をお招きして研修会を行いました。テーマは「歩行再建と生活再建」少子高齢化の時代において、「歩行」に対するリハビリテーション（以下リハビリ)）の重要性と、患者様の社会復帰・新しい人生の再構築について学びました。研修会当日はZOOMで県内・外の病院からも参加者が多く、大変盛り上がりました。この研修会では大畑先生とHONDA技研ロボティクス事業ドメインが共同開発したリハビリロボット「歩行アシスト」を当院が県内で唯一導入しており、歩行アシストの活用方法や、運動麻痺により歩行困難な方への有効なリハビリアプローチについて教わりました。

私たちが現場で日常的に提供しているリハビリの幅と奥行きを与えていただき、職員一同大変成長させていただきました。研修会の翌日からさっそく臨床現場に変化が見られました。職員の提供するリハビリメニューが一新し、患者様もリハビリ効果を実感しておられる様子でした。研修会場には、入院患者様とご家族様も参加され、熱心に聴講されていました。大畑先生から研修中に「患者様の限界を勝手に決めてはいけない」と言われた言葉がとても印象的でした。患者様の気持ちに寄り添い、自律心を養いつつこれからも攻めの姿勢で積極的にリハビリに取り組んでいこうと思います。

### ～歩行アシストの紹介～

リハビリと聞くと、マッサージやストレッチを「してもらう」ことを想像するかもしれません。しかし、そもそもリハビリは患者さんの権利の復権を意味します。このため、誰かに「してもらう」のではなく、自分で「行う」ことが何より重要です。その意味で、「歩行アシスト」はリハビリの真の目的に適った機器と言えます。歩行アシストはロボットが歩行を行わせるのではなく、装着している本人も気づかない程度の援助しか行いません。しかし、だからこそ自分で正しく歩けていることを実感し、それにより自信を取り戻せます。これがまさにリハビリの本質だと考えます。単に歩けるだけでなく、「移動する喜び」を実感する。そこに大きな意義があると思っています。

教育研修部　理学療法士　嶋田陽一

### 大畑光司先生の略歴

京都大学大学院医学研究科人間健康科学専攻 講師
北陸大学 健康未来社会実装センター センター長
北陸大学 医療保健学 理学療法学科 教授

## 東ブロック学術運動交流集会

２年ぶりに東ブロック学術運動交流集会を開催しました。

10/20の時間外に、東ブロック学術運動交流集会を開催しました。

昨年は、新型コロナ感染症の影響で予定を立ててはクラスターで中止…を繰り返し実施できませんでしたので２年ぶりの開催です。

当日は、仕事終わりや記録途中でしたが７２名の方が参加されました。

宮西事務長より、上半期の病院目標と経営状況と下半期の取り組みと期待について報告がありました。その後、SDHについての学習と病棟よりSDHに関連する２症例発表を行いました。

参加者からは、クラスターの発生で５００～７００万円の損失があったことが印象強く受け止められ、クラスターが発生することは、患者のいのちや頑張ってきたリハビリへの影響だけでなく、スタッフの精神的・肉体的負担、経営にも影響すること。感染を持ち込まない・拡げないための体調管理・標準予防策への取り組みを気を付けたいと感想が寄せられました。

SDHについても病気の「原因の原因」に目を向けて情報収集を行いながら多職種と共有し、生活環境の改善を行っていくこと。SDHは特定の地域や人だけの問題ではないこと、幼少期からのライフコースの影響、社会的排除や孤立への関わりと対応、社会参加を意識した目標設定を行いたいとの感想が多く寄せられました。また、症例を通して生活の再構築を含めたSDH事例との関わり方、民医連・医療福祉生協らしい地域の組合員さんと一緒に取り組む退院支援について深められました。

※東ブロック：香川医療生活協同組合の高松東エリアの事業所

## 外来栄養

外来で栄養指導を担当している管理栄養士です。

栄養指導は与えられた時間が長く、患者様の話をゆっくりと聞くことができます。そのため食を通じて患者様の話の中にさまざまな生活背景が見えてきます。

例えば若い方ほど朝食欠食率が高く、昼食も時間がないとの理由から麺類などで軽く済ませ、遅い夕食が重くなりがちです。仕事に追われている様子がうかがえます。高齢者では、一人または二人暮らしの世帯がほとんどです。中には同じ食事が続いたり、昼食を抜いて2食にするなど低栄養が心配される場合もあります。高齢者にも子ども食堂のような気軽に会食できるような場所があったらいいなと思います。

最近は物価の高騰のあおりを受け、特に魚や果物、季節によっては野菜まで高価で買えないと言われ、より一層の工夫が食生活のアドバイスに必要な場面も増えました。

なるべく患者様の置かれた状況や時々の気持ちを十分に考慮し伴走していきたいと思います。

地域においては長年組合員さんの健康維持増進のお手伝いの一つとして、「減塩」や「バランスの良い食事」等のテーマで健康教室の講師を務めてきました。

コロナ禍でしばらく中断していましたが、少しずつ再開しています。

皆様からいただく笑顔が一番のエネルギー源となっています。

これからもよろしくお願いします。

## 訪問リハビリテーション

訪問リハビリテーション科では、「日々の暮らしを自分らしく暮らすため」
利用者さまひとりひとりに合ったリハビリテーションを行っています。
＊【職員体制】：理学療法士４名、作業療法士２名、言語聴覚士１名

### 主な対象の方

・退院や退所後の自宅生活に不安がある方。（短期間の利用でも大丈夫です。）
・骨折等で今まで出来ていたことが急に出来なくなった方。
・自宅で入浴、料理や外出といった新たな目標に挑戦したいと思っている方。
・介助方法や住宅環境についてアドバイスが欲しいと思った方。
・言葉がはっきりとせず、会話することに難渋している方。
・高次脳機能障害で生活が不自由で困っている方。
・摂食嚥下等でお困りの方。　等

**ご相談だけでも喜んでお受けします！　お気軽にお電話ください！　直通　087-833-2416**

## 「大須賀ひでき」さんコンサート開催

2023年11月２日高松協同病院内で元デュークエイセス「大須賀ひでき」さんのコンサートが開催されました。66歳になられた大須賀さんは現在「ルート66全国ツアー」中です‼香川県内で行われるコンサートの合間にボランティアで当院にも来ていただきました。4年前にも当院でコンサートを開いていただき、今回で２回目の開催となります。

入院患者様76名・職員多数で会場は埋め尽くされ、「翼をください」「いい日旅立ち」「上を向いて歩こう」など、懐かしくもあったかく元気になる選曲と、心に響く歌声で魅了されました。最後にアンコールで、ご自身の「ハロー60’（シックスティズ）」をご披露いただき会場一体になり盛り上がりました。コロナ感染の制限がまだ残る入院中の患者様を対象に、今回の機会を作っていただいた大須賀さんに感謝します。入院患者様はとても記憶に残る楽しいイベントになりました。ありがとうございました。

## 開院20周年記念講演会

**開催日時：2024 年 1 月 13 日（土）14：00～16：00**
**開催場所：穴吹学園ホール**
**記念講師：石田竜生（介護エンターテイナー）**